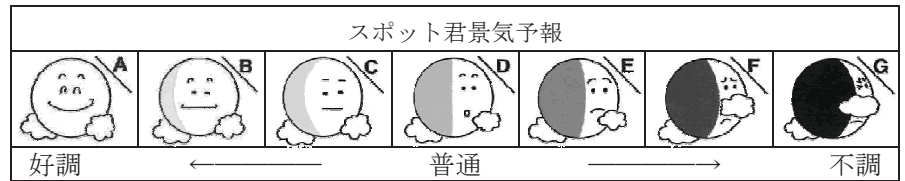


2. 目黒区内中小企業の景況（平成 27 年 10～12 月期）

（1）今期の特徴点



製造業



製造業の主要指標をみると、業況は 2.4 で前期比 4.6 ポイント増とやや改善した。売上額は 5.3 で 4.4 ポイント増となり、やや増加幅が拡大した。受注残は 2.2 ポイント増の 3.3 とやや良化し、収益は 3.0 で 5.1 ポイント増とわずかに増加に転じた。来期の見通しについては、業況、売上額、受注残、収益ともに大幅に厳しさを強める見込み。

価格動向については、販売価格は 1.1 ポイント増の $\Delta 2.0$ 、原材料価格は 0.7 ポイント減の 12.9、在庫については 0.1 ポイント減の $\Delta 1.1$ となり、それぞれ前期並みとなった。来期の見通しについては、原材料価格はやや上昇幅が縮小する見込み。販売価格、在庫は横ばいを予想している。

資金繰りは $\Delta 9.9$ で 0.1 ポイント増と前期並みとなった。借入難易度は $\Delta 15.6$ でやや厳しさが増し、借入をした企業は 23.9% で 3.3 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 11.8% で前期並みとなった。来期の見通しについては、資金繰りは $\Delta 10.0$ と前期並みで、借入をする企業は 10.8% と大幅に減少、設備投資を実施する企業は 13.0% と変化ない見込み。

経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」で 44.1% となった。2 位は「同業者間の競争の激化」と「利幅の縮小」が同率の 28.0%、3 位は「原材料高」で 17.2% となった。

重点経営施策は、1 位は「経費を節減する」で 59.1%、2 位は「販路を広げる」で 47.3%、3 位は「新製品・技術を開発する」で 15.1% となった。

卸売業



卸売業の主要指標をみると、業況は 3.1 ポイント減の $\Delta 1.5$ と若干悪化に転じた。売上額は 1.5 ポイント減の 17.4 となり、横ばいとなった。収益は 5.1 で 0.1 ポイント増と前期並みとなった。来期の見通しについては、業況は前期並みだが、売上額は増加傾向が大幅に後退し、収益は大きく水面下に落ち込む見込み。

価格動向については、販売価格は 14.1 で 9.3 ポイント増と大幅に上昇傾向を強め、仕入価格は 9.1 ポイント増の 20.8 ポイントと大きく上昇が強まった。在庫については 3.5 ポイント増の 5.7 とやや過剰感が強まった。来期の見通しについては、仕入価格、販売価格は落ち着きを見せ、在庫は大きく過剰から品薄へと転じる見込み。

資金繰りは $\Delta 6.1$ で 11.6 ポイント減と大幅に厳しい状況に転じた。借入難易度は 3.8 と前期と同様で、借入をした企業は 28.6% で 3.6 ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 14.3% と 4.2 ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは $\Delta 8.9$ と苦しさがやや強まり、借入をする企業は 15.4% と大幅に減少する見込み。設備投資をする企業は、22.2% と大幅に増加する見込み。

経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」で 32.1% となった。2 位は「同業者間の競争の激化」と「利幅の縮小」で同率の 28.6% となった。3 位は「仕入先からの値上げ要請」で 17.9% となった。

重点経営施策は、1 位は「経費を節減する」で 53.6%、2 位は「販路を広げる」で 32.1%、3 位は「情報力を強化する」で 28.6% となった。

小 売 業



小売業の主要指標をみると、今期の業況は $\Delta 27.9$ で12.1ポイント減と大幅に悪化幅が拡大した。売上額は $\Delta 15.1$ で4.7ポイント減とやや低迷し、収益は $\Delta 16.6$ で0.1ポイント減と前期並みとなった。来期の見通しについては、売上額と収益は大幅に減少を強め、業況は幾分厳しさを増す見込み。

価格動向については、販売価格は2.0ポイント増の4.2とやや上昇幅が拡大し、仕入価格も18.3で3.3ポイント増とわずかに上昇が強まった。在庫は2.1ポイント増の $\Delta 2.0$ と、やや不足感が改善した。来期の見通しについては、販売価格と仕入価格はやや上昇幅が縮小、在庫は2.5ポイント増の0.5とやや在庫過多に転じる見込み。

資金繰りは $\Delta 25.3$ で15.3ポイント減と大幅に厳しさが増した。借入難易度は8.4ポイント減の $\Delta 11.1$ と大きく窮屈感が強まり、借入をした企業は6.4%で0.3ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は8.3%でわずかに増加した。来期の見通しについては、資金繰りは $\Delta 28.7$ とやや苦しさが強まり、借入をする企業と設備投資をする企業はやや減少する見込み。

経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」で53.1%となった。次いで2位は「同業者間の競争の激化」で38.8%、3位は「大型店との競争の激化」で20.4%と続いた。

重点経営施策は、1位は「経費を節減する」で44.9%となった。次いで2位は「品揃えを改善する」で40.8%、3位は「宣伝・広告を強化する」で30.6%となった。

サ ー ビ ス 業



サービス業の主要指標をみると、今期の業況は $\Delta 11.6$ で1.9ポイント増とやや持ち直した。売上額は5.0ポイント減の $\Delta 10.1$ とやや減少を強め、収益は0.1ポイント減の $\Delta 8.5$ と前期並みとなった。来期の見通しについては、業況、収益はいずれも前期並みで、売上額はやや改善する見込み。

価格動向については、料金価格は4.1ポイント増で $\Delta 5.9$ となり、やや下降幅が縮小した。材料価格は2.0ポイント増の10.8となり、やや上昇幅が拡大した。来期の見通しについては、料金価格は1.2ポイント増の $\Delta 4.7$ と前期並みで、材料価格は0.1ポイント増の10.9と前期並みの上昇が続く見込み。

資金繰りは、 $\Delta 9.6$ で0.7ポイント減と前期同様変化なく、借入難易度は1.9ポイント減の $\Delta 8.0$ とやや厳しさが増した。借入をした企業は19.6%で3.5ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資をした企業は12.5%で0.2ポイント増と前期並みとなった。来期の見通しについては、資金繰りはやや厳しさが和らぎ、借入をする企業は大幅に減少し、設備投資をする企業はやや増加する見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で43.9%、2位は「売上の停滞・減少」で38.6%、3位は「利幅の縮小」で17.5%となった。

重点経営施策は、1位は「経費を節減する」で43.9%、2位は「販路を広げる」で40.4%、3位は「宣伝・広告を強化する」で26.3%となった。

建設業



建設業の主要指標をみると、業況は 6.7 で 2.7 ポイント増とわずかに好感が強まった。売上額は 2.6 で 7.1 ポイント減と大きく伸び悩み、収益は 1.5 で 2.6 ポイント増とわずかに増加に転じた。施工高は 7.3 で 2.5 ポイント減とやや後退し、受注残は 8.2 で 2.8 ポイント増とわずかに上向いた。来期の見通しについては、収益はやや堅調さを強め、施工高、受注残はやや増加幅が拡大し、売上額、業況は大きく好調さが強まる見込み。

価格動向については、請負価格は 9.0 ポイント増の 16.0、材料価格は 6.0 ポイント増の 49.2 となり大きく上昇傾向を強めた。在庫については△1.0 で 6.9 ポイント減となり、大きく過剰から品薄へと転じた。来期の見通しについては、請負価格はやや上昇幅が拡大し、材料価格は前期並みとなる見込み。

資金繰りは、△17.1 で 14.4 ポイント減と大幅に厳しさが増し、借入難易度は 5.6 とやや楽になり、借入をした企業は 2.7 ポイント増の 31.6% で前期よりもわずかに増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 15.8% でやや増加した。来期の見通しについては、資金繰りは厳しさが大幅に和らぎ、借入をする企業は大きく減少するとみられる。設備投資を実施する企業はやや増加する見込み。

経営上の問題点は、1 位は「材料価格の上昇」で 50.0% となった。次いで 2 位は「同業者間の競争の激化」で 44.7%、3 位は「売上の停滞・減少」で 28.9% となった。

重点経営施策は、1 位は「経費を節減する」で 68.4%。2 位は「販路を広げる」で 47.4%、3 位は「人材を確保する」で 31.6% となった。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測

